

株式会社ニレコ(6863)

2014年3月期第2四半期 決算説明会資料

2013年11月26日

2014年3月期第2四半期
(2013/4 – 2013/9)
決算の概要について

決算実績概要①計画対比

単位:百万円

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
期初予想(A)	3,600	150	170	200
(8/9修正予想)	3,000	-50	-30	80
実績(B)	3,100	79	105	193
増減額(B-A)	-499	-70	-64	-6
増減率(%)	-13.9	-46.9	-38.1	-3.0

期初予想と実績の差異理由

検査機事業における選果装置など一部は第3四半期以降への売上時期のずれ込みがあった。また、当初想定していた以上に取引先が設備投資に極めて慎重な姿勢を継続したため。

決算実績概要②前年同期対比

➤ 受注高(前年同期比7.4%減)

選果装置の大口案件があった前年同期と比べ検査機事業の受注高が減少した。一方、苦戦が続いてきたプロセス事業は大幅増と明るい兆し。

➤ 売上高(前年同期比7.6%減)

検査機事業は選果装置が好調であったが前年同期とほぼ同等となった。期初受注残高が少なかったプロセス事業は想定どおり減収。また、ウェブ事業の苦戦もあり、全体で減収。

➤ 営業利益(前年同期比33.3%減)、四半期純利益(前年同期比88.5%増)

営業利益は経費削減努力の効果はあったものの、減収の影響は避けられず、営業利益率は1.0ポイント低下。一方、四半期純利益は保有株式の売却による投資有価証券売却益の計上により増益。

決算実績

単位:百万円

	13/3 2Q累計 実績	14/3 2Q累計			前年同期比増減	
		期初予想	8/9修正予想	実績	金額	比率(%)
売上高	3,356	3,600	3,000	3,100	-255	-7.6
売上総利益	1,186	1,250	1,000	1,059	-126	-10.7
売上比(%)	35.4	34.7	33.3	34.2		
販管費	1,067	1,100	1,050	980	-87	-8.2
売上比(%)	31.8	30.6	35.0	31.6		
営業利益	119	150	△50	79	-39	-33.3
売上比(%)	3.6	4.2	-	2.6		
経常利益	153	170	△30	105	-48	-31.6
売上比(%)	4.6	4.7	-	3.4		
四半期純利益	102	200	80	193	+91	+88.5
売上比(%)	3.1	5.6	2.7	6.3		
一株当り利益(円)	14.03	27.11	10.83	26.22	+12.19	+86.9
受注高	3,911			3,622	-288	-7.4
受注残高	2,587			2,509	-78	-3.0
設備投資	38			38	0	+1.2
売上比(%)	1.1			1.3		
減価消却費	70			65	-4	-6.7
売上比(%)	2.1			2.1		
研究開発費	279			321	+42	+15.1
売上比(%)	8.3			10.4		

セグメント別決算実績

単位：百万円

セグメント		13/3 2Q累計 実績	14/3 2Q累計 実績	前年同期比増減	
				金額	比率(%)
プロセス事業	売上高	1,159	1,008	-151	-13.1
	受注高	1,046	1,357	+311	+29.7
	受注残高	870	1,066	+195	+22.5
ウェブ事業	売上高	1,570	1,417	-152	-9.7
	受注高	1,581	1,468	-112	-7.1
	受注残高	676	800	+123	+18.3
検査機事業	売上高	613	653	+39	+6.5
	受注高	1,267	776	-491	-38.7
	受注残高	1,035	642	-392	-38.0

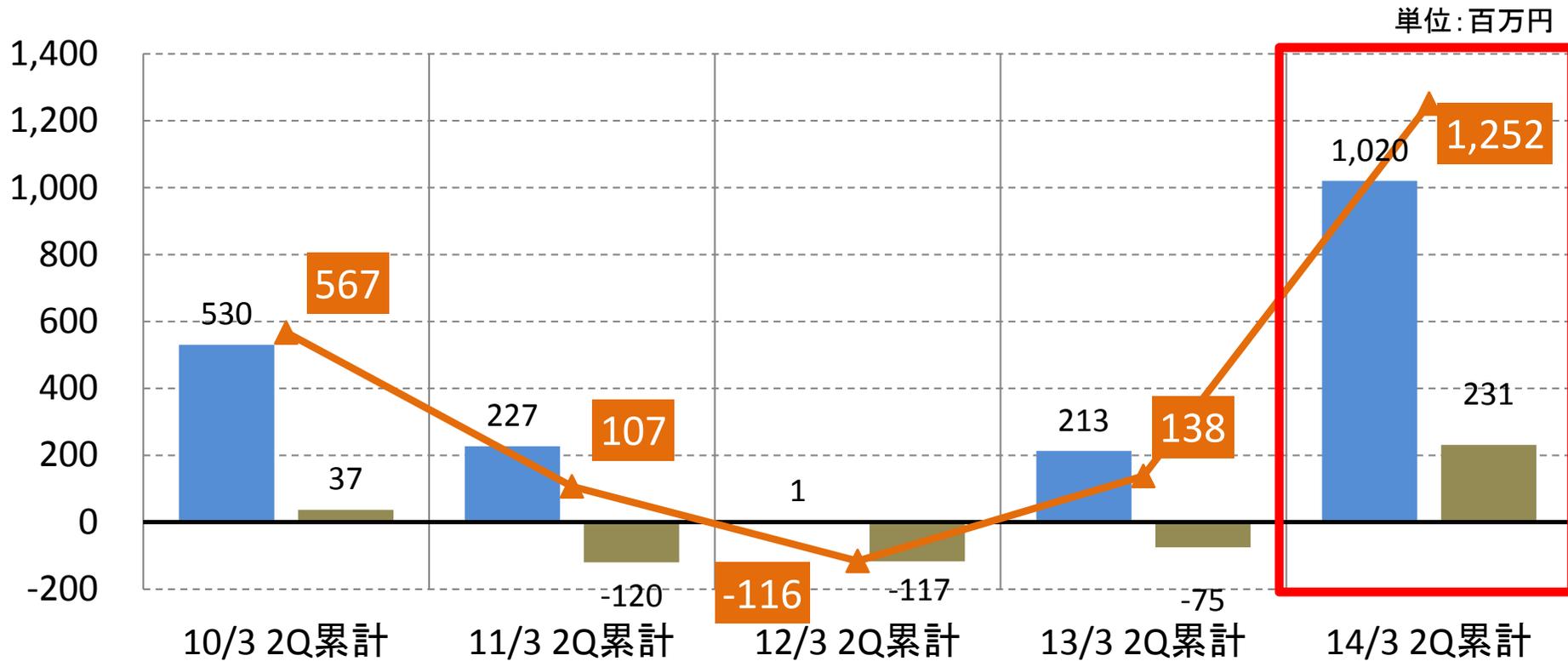
資産・負債・純資産の状況

単位:百万円

	13/3末		14/3 2Q末		増減額	備考
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)		
現金預金	3,648	29.2	4,829	38.3	+1,181	売上債権の回収、投資有価証券の売却
売上債権	2,857	22.9	1,993	15.8	-863	売上債権の回収
有価証券	72	0.6	40	0.3	-32	
棚卸資産	2,184	17.5	2,341	18.6	+156	出荷済作業未完製品在庫の増加
その他流動資産	544	4.4	478	3.8	-65	
流動資産	9,306	74.5	9,682	76.8	+376	
有形固定資産	1,228	9.8	1,212	9.6	-15	
無形固定資産	136	1.1	112	0.9	-24	
投資その他資産	1,826	14.6	1,604	12.7	-222	投資有価証券の売却
固定資産	3,191	25.5	2,928	23.2	-262	
資産合計	12,497	100.0	12,611	100.0	+114	
買入債務	245	2.0	253	2.0	+7	
その他流動負債	853	6.8	917	7.3	+63	
流動負債	1,099	8.8	1,170	9.3	+71	
固定負債	388	3.1	331	2.6	-56	
負債合計	1,487	11.9	1,502	11.9	+14	
純資産合計	11,009	88.1	11,108	88.1	+99	
負債・純資産合計	12,497	100.0	12,611	100.0	+114	

- 売上債権回収及び投資有価証券売却により現金及び預金が増加。また、棚卸資産は出荷済製品の最終作業が未完のため売上計上が期をまたぎ、一時的に増加。
自己資本比率は87.4%(前期末比+0.1ポイント)。

キャッシュ・フローの状況



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー ■ 投資活動によるキャッシュ・フロー ▲ フリー・キャッシュ・フロー※

- 営業活動によるキャッシュ・フローが税金等調整前四半期純利益や売上債権の減少などにより1,020百万円となり、投資活動によるキャッシュ・フローが投資有価証券の売却による収入などにより231百万円となった。その結果、フリー・キャッシュ・フローは1,252百万円となった。

※フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

2014年3月期
(2013/4 – 2014/3)
通期見通しについて

通期見通し概要①業績予想の修正について

単位：百万円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
期初予想(A)	8,000	550	600	530
今回予想(B)	7,500	520	570	500
増減額(B-A)	-500	-30	-30	-30
増減率(%)	-6.3	-5.5	-5.0	-5.7

修正の理由

第3四半期以降は、景気回復の流れの中で設備投資の動きが活発化すると想定しているものの、第2四半期(累計)期間までの未達分を取り返すほどの急激な回復は見込めないため。

通期見通し概要②前年同期対比

➤ 売上高(前年同期比4.3%増)

特に下半期はプロセス事業、ウェブ事業の増収に注力。

- プロセス事業は、大幅増となった受注残高の売上と設備改修などの中小規模案件やアフターサービスなど短納期の受注獲得に注力。
- ウェブ事業は、好調が続く高機能フィルム業界の設備投資に向けた動きに期待。また、印刷業界における老朽設備の更新需要を狙う。

➤ 営業利益(前年同期比21.9%増)

増収効果＋変動費低減諸施策を引き続き推進。

通期見通し(前期比)

単位:百万円

	13/3 実績	14/3 期初予想	14/3 今回予想	前年同期比増減	
				金額	比率(%)
売上高	7,191	8,000	7,500	+308	+4.3
売上総利益	2,491	2,750	2,620	+128	+5.2
売上比(%)	34.6	34.3	34.9		
販管費	2,064	2,200	2,100	+35	+1.7
売上比(%)	28.7	27.5	28.0		
営業利益	426	550	520	+93	+21.9
売上比(%)	5.9	6.9	6.9		
経常利益	485	600	570	+84	+17.3
売上比(%)	6.8	7.5	7.6		
当期純利益	520	530	500	-20	-3.9
売上比(%)	7.2	6.6	6.7		
一株当り利益(円)	70.83	71.83	67.40	-3.43	-4.8
受注高	7,145	8,000	8,000	+854	+12.0
受注残高	1,987	1,950	2,450	+462	+23.3
設備投資	94	150	150	-31	-17.1
売上比(%)	1.3	1.9	2.0		
減価消却費	154	160	160	+6	+3.9
売上比(%)	2.1	2.0	2.1		
研究開発費	619	700	700	+83	+13.4
売上比(%)	8.6	8.8	9.3		

セグメント別通期見通し(前期比)

単位:百万円

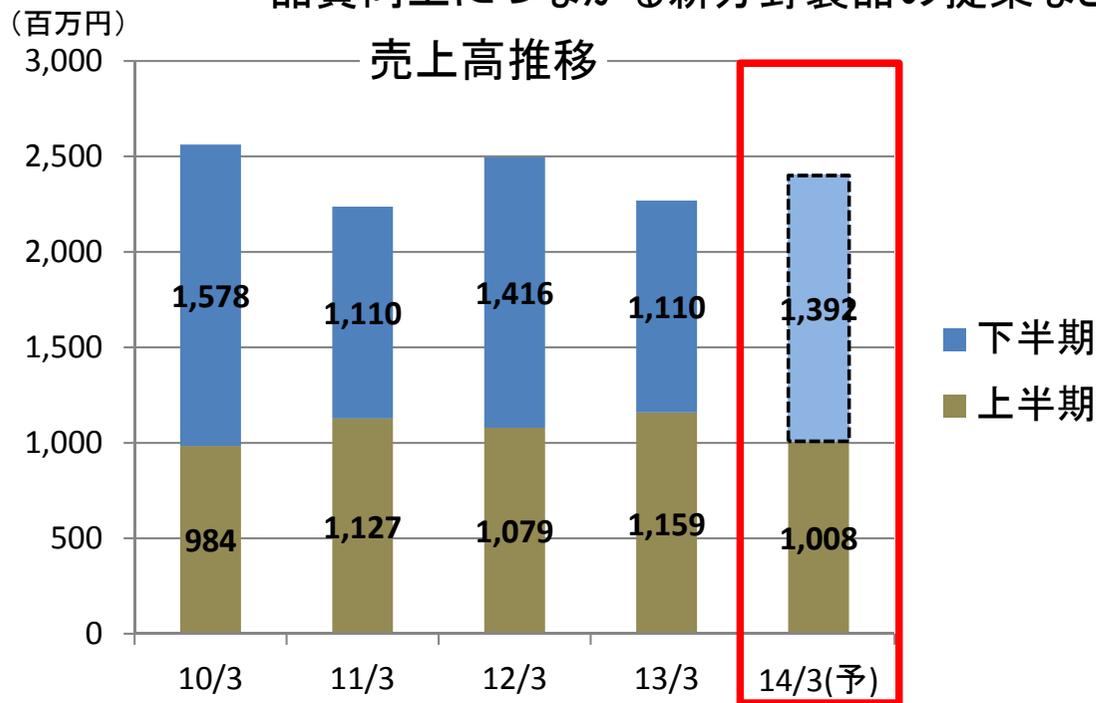
セグメント	13/3 実績	14/3 期初予想	14/3 今回予想	前年同期比増減		
				金額	比率(%)	
プロセス事業	売上高	2,270	2,600	2,400	+129	+5.7
	受注高	2,004	2,600	2,600	+595	+29.7
	受注残高	717	700	900	+182	+25.5
ウェブ事業	売上高	3,101	3,500	3,300	+198	+6.4
	受注高	3,185	3,400	3,400	+214	+6.7
	受注残高	748	650	850	+101	+13.5
検査機事業	売上高	1,789	1,900	1,800	+10	+0.6
	受注高	1,927	2,000	2,000	+72	+3.7
	受注残高	519	600	700	+180	+34.9

セグメント別今期実績と見通し①プロセス事業

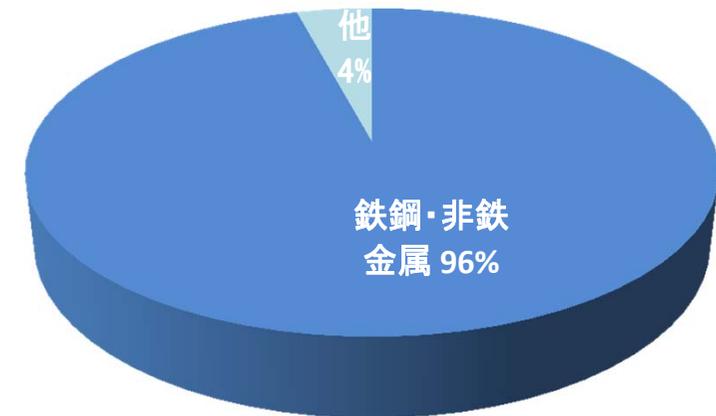
上半期実績

受注高:1,357百万円 売上高:1,008百万円 セグメント利益:91百万円 利益率9.1%

国内鉄鋼業界は業績好転。但し、国内設備投資は慎重な姿勢が続き、中長期的な観点から海外設備投資に注力。前期の受注低迷により減収減益となったものの、既存設備の更新や品質向上につながる新分野製品の提案などにより受注高は大幅増。



業種別売上構成比(上半期)



下半期見通しと施策

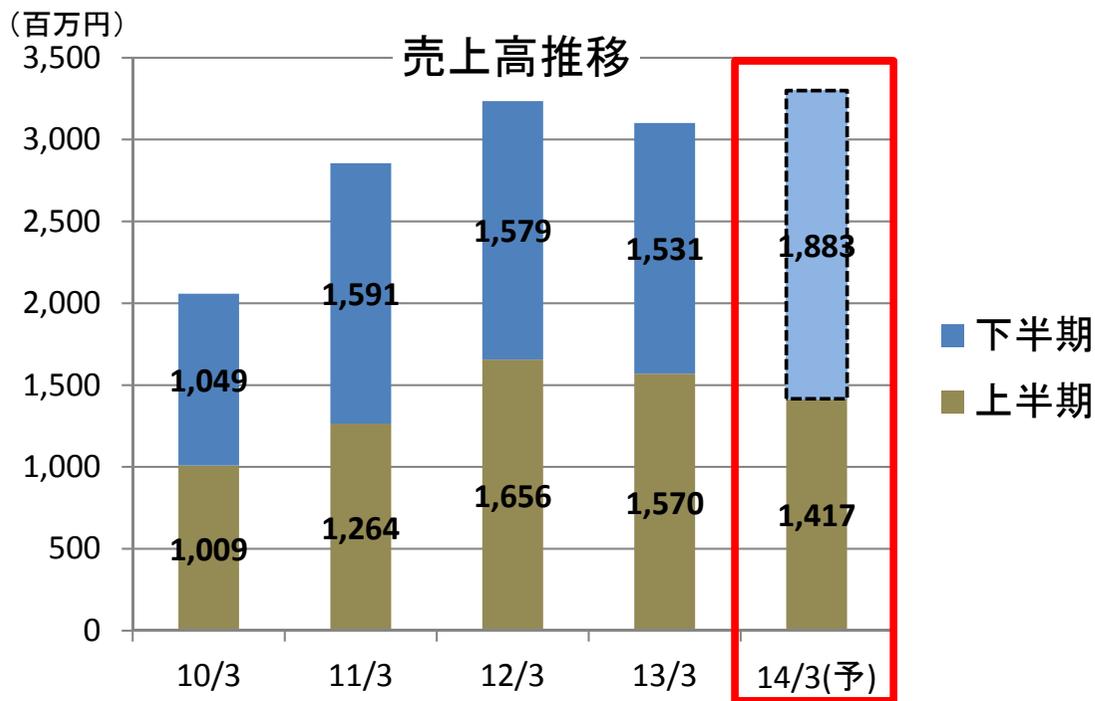
事業環境の改善が続く国内メーカーや動きが出始めている東南アジア地域の中小規模設備投資に向け、引き続き個別のニーズに即した提案により受注獲得を狙う。また、連結子会社ニレコ計装の吸収合併により効率的な運営体制が整った。今後は営業とサービスが一体となり、緊密な情報共有による機動的な事業展開を目指す。

セグメント別今期実績と見通し②ウェブ事業

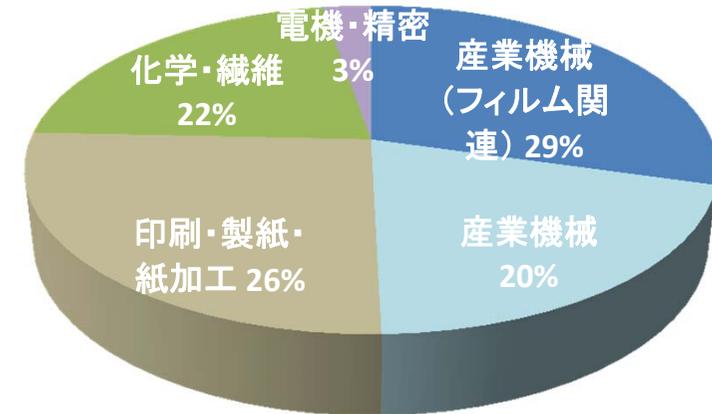
上半期実績

受注高:1,468百万円 売上高:1,417百万円 セグメント利益:187百万円 利益率13.3%

スマートフォンやタブレット端末向けに高機能フィルム業界の業績は好調だが、設備投資に対する動きは慎重な姿勢を崩さず、苦戦を強いられ減収減益。



業種別売上構成比(上半期)



下半期見通しと施策

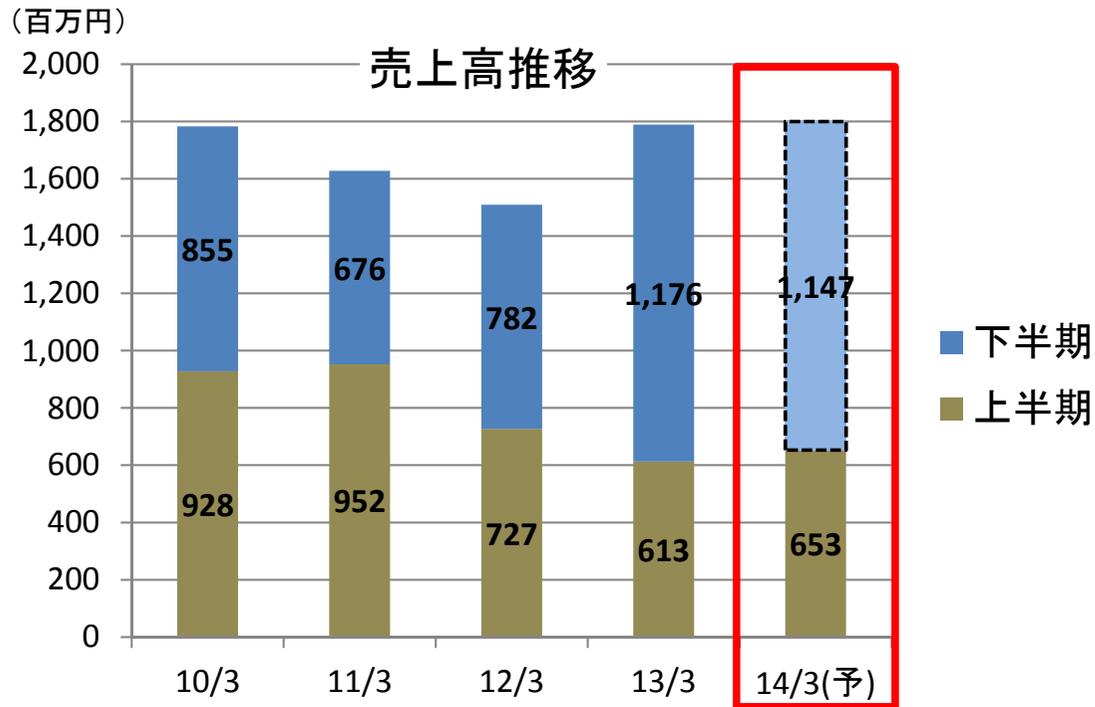
高機能フィルム業界は、このまま好調が継続し、いずれ設備投資をすると見ている。このタイミングを逃さず真空対応の耳端位置制御装置、張力制御装置など新製品を中心に拡販を目指す。また、印刷業界向けは、更新期を迎えた老朽設備に照準を合わせて見当合せ制御装置の受注獲得を目指す。また、高品質ニーズが出てきた中国・韓国市場に対して、印刷品質検査装置の受注拡大を狙う。

セグメント別実績と見通し③検査機事業

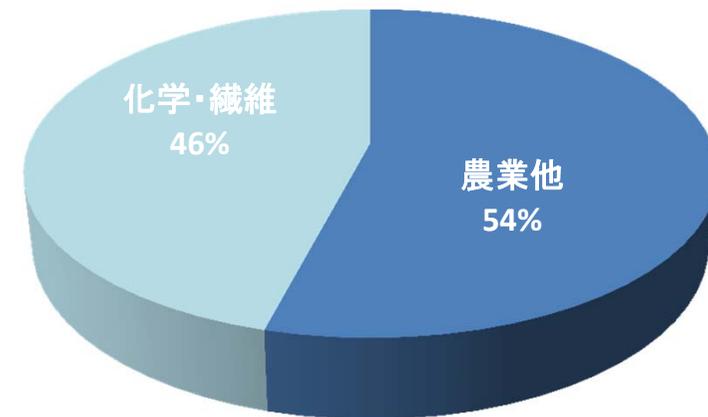
上半期実績

受注高:776百万円 売上高:653百万円 セグメント利益:67百万円 利益率10.4%

好調な選果装置の牽引により増収増益。



業種別売上構成比(上半期)



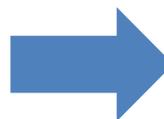
下半期見通しと施策

選果装置は、農水省関連予算が2年分積み上がっている中、その実行による大幅受注増が期待されるも、未だ状況は不透明。一方、無地検査装置は新型機を10月に投入。受注獲得に注力。

重点施策の進捗状況①プロセス事業

期初発表の重点施策

1. 携帯マーカや形状計等の新製品をPRし、ユーザーの潜在ニーズを掘り起し、新たな市場への付加価値の高い製品を提供する。
2. 国内の製鉄所の既存設備は老朽化してきており、潜在的な更新・改修需要がある。コストダウン型新製品のPRにより潜在需要を引き出す。
3. 海外の設備更新で、主に東南アジア地域で計画されている中小規模の設備投資案件の獲得を目指す。(コストダウン型製品と円安で競争力は増している。)
4. サービス子会社のニレコ計装を吸収合併。中期的にはサービス要員の強化と営業との連携、短期的には販管費や間接費の節減による収益向上を図る。



進捗状況と今後の見通し

1. 積極的なPRが奏功し、形状計や携帯マーカなど新分野製品の受注高は前年同期比大幅増。引き続きニーズの掘り起しに注力する。
2. 国内鉄鋼業界は業績回復に伴い老朽設備の更新・改修に動き出している。この機を捉え、コストダウン型新製品の積極的な営業活動を展開する。
3. 引き続き推進中。
4. 10月1日に合併完了。サービス要員に古い製品から新製品への買い替えを促す推進役を期待。

重点施策の進捗状況②フィルム関連

期初発表の重点施策

1. 中小型パネル向け部材の設備投資がこの2年ほど夏に停滞、前期はその落ち込みが業績に影響したが、今期は大型製造装置の設置が夏に始まると見られ、そのタイミングで受注拡大を狙う。
2. 海外生産体制の強化が進んだ上、円安の効果で韓国や中国などの地場メーカーと比べ有利に戦えるようになった。海外市場開拓を加速する。
3. 無地検査装置は高速高精細要求に応える新型機を投入し、受注拡大を図る。
4. 二次電池部材向けの設備投資はあるものの、電気自動車の普及が進まないため動きが鈍くなっている。



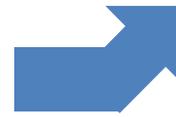
進捗状況と今後の見通し

1. 夏場の設備投資は見送られたが、スマートフォンの新機種投入や製造装置メーカーの好業績など、投資に向けた地合いは整った。今後の受注増に向けて営業活動を積極化する。
2. 今後は耳端位置制御装置のシステム販売などウェブ事業のラインナップ拡充にも注力する。
3. 新型機をこの10月より販売開始。引き合いが増えており、受注拡大に向けて期待できる。
4. 車載用、家庭用に少しずつ動きが出てきているので、その動きを逃さずに捉える。また、将来に備えて新型機の開発にも注力する。

重点施策の進捗状況③農水産業関連

期初発表の重点施策

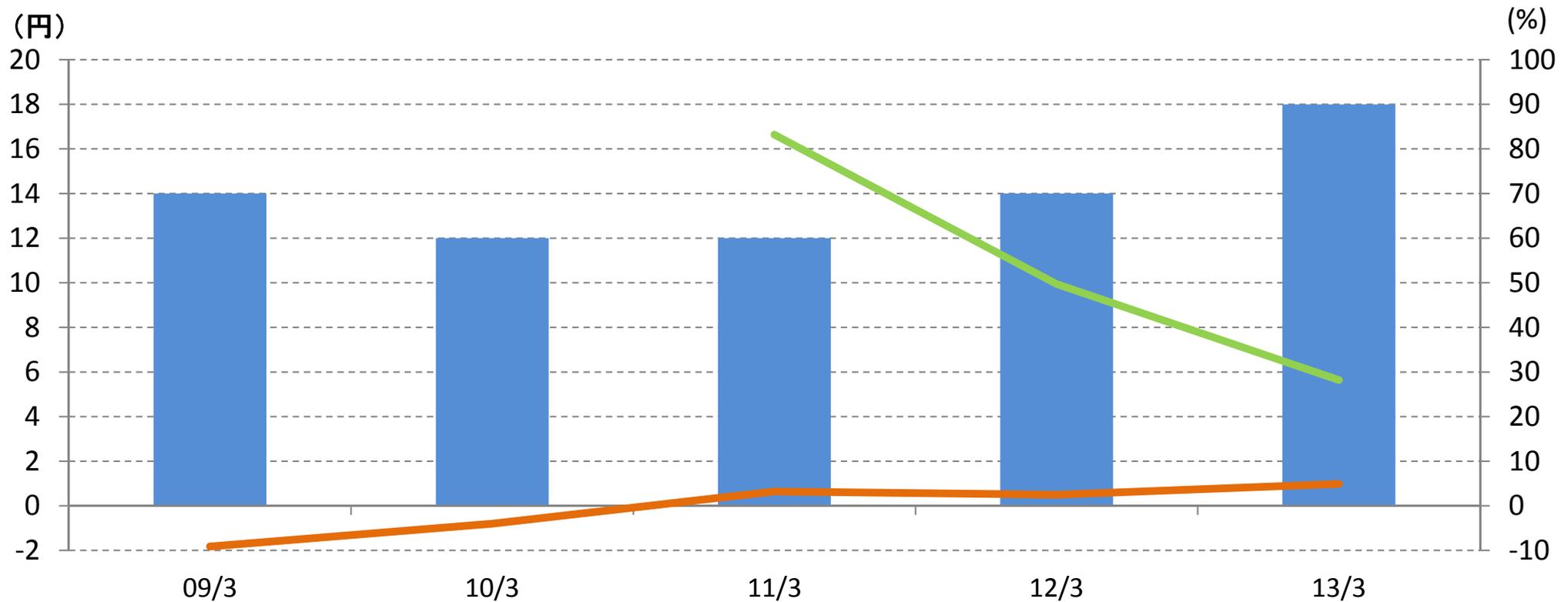
1. 予算の大幅増額と、それに伴う将来計画物件の前倒し実施が予想されるこの機会に受注拡大を図る。
2. 米国で高級オレンジ向けに選果装置を貸与・テスト中。海外のプラント・メーカーと協業を進め、受注に向けたアピールを継続する。
3. 魚自動選別ライン・センサーの開発を進め、製品化を狙う。



進捗状況と今後の見通し

1. 予算は昨年度比ほぼ倍増もその実行が進まず。今後は促進策の動向も含めて実行のタイミングを捉え、受注獲得を狙う。
2. 貸与先からこの上半期に正式受注を獲得。今後はこれを成功事例に更なる米国市場での拡販を狙う。
3. 魚選別センサーの開発が完了し、この下半期にテストを実施。製品化へ向けて順調に進んでいる。

株主還元について



	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3
■ 配当金(円)	14	12	12	14	18
— 配当性向 (%) ※	—	—	83.2	49.7	28.2
— ROE (%)	-9.1	-4	3.2	2.5	4.9

- 今上半期の事業環境は厳しかったものの、安定的な配当の継続及び通期見通しを勘案し、中間配当金は1株当たり10円を決定(前期中間比+2円)。また、今年度の配当金は中間配当金と合わせ20円を予定。

※配当性向は個別当期純利益に対して算出しております。

株式会社ニレコ

電話:042-642-3111

HPアドレス: <http://www.nireco.com>

IR関連のご質問・ご意見はこちらへ

<http://www.nireco.jp/inq/index.html>